

地域資源の価値を再認識するためのノウハウに関する研究 ～ブラタモリにみる風景の紐解き方～

九州工業大学大学院工学府 工学専攻 交通工学研究室 木村俊介
九州工業大学大学院工学研究系 建設社会工学研究系 教授 吉武哲信

1. 研究の背景と目的

学習型ツーリズム・・・地域に目を向けた観光，地域資源の魅力を伝える環境省（エコツーリズムのすすめ） 佐野（観光研究，vol.33, No.3, pp.11-18, 2021）

エコツーリズムの推進により，**地域資源の価値が理解され，保全につながる。**

体系的かつ継続的な知識を追求する観光客は，**関係人口になりやすい傾向がある。**

推進のためには住民が地域資源の価値を再認識することが第一歩

課題：住民が地域資源の価値を再認識するための方法とは？

住民が地域資源の再認識に至るためのノウハウとして，**ブラタモリの手法**を分析・考察し，**風景の紐解き方の手引**を作成する。

a) 風景を紐解く視点の一覧

地域風景の成り立ちを理解するための視点の整理を行う

b) 複数視点の活用パターン

視点の組み合わせ傾向を整理する

c) 番組の組み立て方

ポイントとなる番組の組み立て方を整理する

各番組の分析「坂の町・長崎の始まりとは？：1巻」

視点	要素(例)	連関する視点・要素
地形・地勢	平地(海と山に囲まれている)/坂の町/細長い岬/海食崖	埋め立て(インフラ)以前の地形である平地・細長い岬・海食崖に着目/地形の高低差・境目に着目
交通	道路の不自然な盛り上がり/下には暗渠となった石橋がある	石橋・暗渠(インフラ)
インフラ	石垣/石橋/暗渠/埋め立て	埋め立て以前のもの・関連して造られたものに着目
建築物・建造物	外国人居留地の名残で洋館がある	外国人居留地(制度・事業)
制度・事業	出島の発掘・復元作業(岸壁の印・石積み・貿易品の古伊万里など)	出島の岸壁の印(地形・地勢)/石積み(インフラ)/貿易(産業)
文化	坂の町ならではの生活の知恵(ごみ収集)	坂の町(地形・地勢)/エレベーター・三角溝(インフラ)
開発	開国し、港ができ、外国人居留地となり海が埋め立てられ段々畑に家が建って山の上へと開発が進んだ	開国(制度)/港・埋め立て(インフラ)/外国人居留地(制度・事業)
地名	細長い岬が変化して長崎になったといわれているかつての船着場だった痕跡として舟津町の名が残っている	細長い岬(地形・地勢)/船着場(インフラ)

※手がかり・・・古写真/昔の地形図

古写真は、各視点から風景の時間的変貌を見る手段となるため手がかりに整理。

人々の暮らしについて着目する「文化」の視点を整理。

町の発展に関する「開発」の視点を整理。

この回は、長崎の町が開港以降のように発展したかについて、開発前の町の姿や地形に着目したストーリーとなっていた。

各番組のストーリー整理「坂の町・長崎の始まりとは？：1巻」

坂の町・長崎の始まりとは？(1巻)
テーマ・・・異国の玄関口として繁栄し、「坂の町」となった経緯を理解する

- 坂の町ならではの生活の知恵(エレベーター、三角溝、ごみ収集)
- 洋館から見える風景と古写真を比較
 - 外国人居留地の名残で洋館がある
 - もともとは海と山に囲まれた平地の町だった
- 開国し、港ができ、外国人居留地となり、段々畑に家が建って山の上へ上へと開発が進んだ
- 鎖国下で貿易を行っていた出島
 - 埋め立てられた出島のもとの岸壁の位置を示す印が道路にある
 - 歴史的価値が見直され発掘・復元作業が行われている(石積みや江戸時代貿易品の古伊万里など)
- 現在の地図と昔の地形図を比較(どこが埋め立てられたのか分かる、昔は細長い岬があった)
 - 地名(長い岬が変化して長崎になった)
 - 地形の高低差(高い石垣がある場所がもとの陸地と埋立地の境目・海食崖の痕跡、船津町→昔の港)
 - 道路の不自然な盛り上がり+石橋電停という名前(大浦橋が埋め立てられ暗渠になっている)

番組のストーリー整理・分析を96番組で行った

4. 分析結果

a) 風景を紐解く視点の一覧

各視点を具体的に分解した着眼点の例

視点	一般的要素(例)
地形・地勢	標高/起伏・勾配/規模・形状/高低差/境目・キワ/以前の地形/位置関係/土地が果たす役割(交通結節点・国境など)/地形的弱点・強み/形成要因など
水	自然の河川/湧き水/池・湖/地下水/滝/水量/変動/傾斜/水質/成分/土地と水面との高低差/形成要因など
地質・土質	地層・岩石の種類/硬さ/成分/形状/透水性・水はけ/鉱物資源/温泉/安定・安全性/加工のしやすさ/形成要因など
気候	気温/湿度/雨量/風/日照/海流(暖流・寒流)/季節変動など
植生	種類/特徴/生育環境/原生林/人工林/固有種/絶滅危惧種など
動物	種類/特徴/生息環境/固有種/絶滅危惧種/食物連鎖など
交通	鉄道/電車/地下鉄/路面電車/船/舟運/自動車/地下道/道路/街道/トンネル/傾斜・盛り上がり/曲がり/ずれ/幅/ケーブルカー/ロープウェイなど
技術・エネルギー	人力/水力/火力/電力/蒸気機関/石炭/石油/測量技術/逆サイフォンの原理/道具/建築様式・使用材料/設計手法/加工技術など
インフラ	石垣/橋/暗渠/埋立地/港/用水路/堀・惣構/地下空間/人工河川/上下水道/公園/井戸/ダム/堤防など
建築物・建造物	家屋/寺社仏閣/城/蔵/娯楽施設/工場/歴史的建築物・建造物の跡地など
産業	貿易業/造船業/炭鉱業/伝統工芸/地場産業/鍛冶産業/観光業/漁業・養殖/食産業/農業/紡績業/製鉄業/工業製品製造など
制度・事業	鎖国・開国/外国人居留地/発掘・復元・保存事業/身分制度/宿駅制/土地割/町割り/御師/園場整備事業、交通関係、都市計画・観光関係の法律との関係など
文化	生活の知恵/地域独自の言葉/気質・人柄/食文化/美術工芸/宗教・信仰/奇進/学問/文学/生活様式など
開発	町の開発・発展に関すること
地名	地域の性格を表現している地名(地形・産業・身分に関する)
人物	地域の発展に貢献した人物/地域のゆかり知名度がある人物
災害	火災/戦災/台風/土砂災害/洪水/火山噴火など
社会情勢	世の中の動き・情勢(戦乱/平和/高度経済成長期/裕福・貧乏など)

※手がかり・・・古写真/地形図/地形模型/昔の地図/古い絵図/浮世絵/赤色立体地図/航海図/昔の観光案内書/建物の平面図/風土記/地盤地質図/地誌/活断層図/縄張り図/森林植生図/旧国名地図など

風景を紐解く際にヒントを与える手がかり

b) 複数視点の活用パターン

	開発(41)	技術・エネルギー(31)	産業(29)	制度・事業(24)	その他
地形・地勢(74)	30	21	25	17	12
地質・土質(39)	12	11	14	10	6
その他	4	5	2	4	

※()は視点が使われた番組数、その他は記載した視点と組み合わせられていない番組数を示す

地域が元来持っている自然に生みだされた環境に関する視点を土台として、**社会や人の営みに関する視点を紐解いていく傾向がみられた。**

2. 研究対象としてのブラタモリ

- 地域風景の成り立ちを様々な視点を組み合わせ、紐解くことで、地域の魅力を再発見する。
- 各種団体から表彰されている。
- 学術活動を市民に伝えるアウトリーチ効果・手法、課題発見→解決までの学習プロセスなど多様な分野から評価されている。

受賞年	受賞名
2011	日本地理学会賞(日本地理学会)
2015	グッドデザイン賞(日本デザイン復興会)
2016	第53回ギャラクシー賞(放送批評懇談会)
2016	「測量の日」功労者(国土地理院)
2016	第42回放送文化基金賞(放送文化基金)
2017	第4回ジュニア防災検定(防災教育推進会)
2017	第2回九州魅力発掘大賞(JR九州)
2017	日本地質学会表彰(日本地質学会)
2018	平成29年度地盤工学賞(地盤工学会)
2020	第28回橋田賞(橋田文化財団)

3. 手引き作成のためのストーリー整理・分析

- 各番組のストーリー整理 対象：書籍版(既発行の1～18巻)96番組

ブラタモリ各番組の内容について箇条書きで整理し、内容に沿ったテーマを設定する。

- 各番組の分析

地域風景がどのような地域資源から形成されたかを把握するため、**地域風景を紐解く視点を整理**する。また各視点から**風景を紐解く際にヒントを与えるもの**について表外の手がかりで整理する。加えて番組の組み立て方について分析する。

各番組のストーリー整理「坂の町・長崎の始まりとは？：1巻」

坂の町・長崎の始まりとは？(1巻)
テーマ・・・異国の玄関口として繁栄し、「坂の町」となった経緯を理解する

- 坂の町ならではの生活の知恵(エレベーター、三角溝、ごみ収集)
- 洋館から見える風景と古写真を比較
 - 外国人居留地の名残で洋館がある
 - もともとは海と山に囲まれた平地の町だった
- 開国し、港ができ、外国人居留地となり、段々畑に家が建って山の上へ上へと開発が進んだ
- 鎖国下で貿易を行っていた出島
 - 埋め立てられた出島のもとの岸壁の位置を示す印が道路にある
 - 歴史的価値が見直され発掘・復元作業が行われている(石積みや江戸時代貿易品の古伊万里など)
- 現在の地図と昔の地形図を比較(どこが埋め立てられたのか分かる、昔は細長い岬があった)
 - 地名(長い岬が変化して長崎になった)
 - 地形の高低差(高い石垣がある場所がもとの陸地と埋立地の境目・海食崖の痕跡、船津町→昔の港)
 - 道路の不自然な盛り上がり+石橋電停という名前(大浦橋が埋め立てられ暗渠になっている)

番組のストーリー整理・分析を96番組で行った

c) 番組の組み立て方

- 地域を眺める切り口を設定するため、番組のお題で多用される「なぜ」や「どう」に着目し、掘り下げ方を分析

① 「なぜ」・「どう」を掘り下げ、**地域の成り立ちや町づくりの工夫に着目した地域を眺める切り口(テーマ)を設定する。**

- ストーリーの組み立て方を見出すため、導入に多用される有名な観光地・人物などに着目し、番組展開を分析

86/96番組

② 導入に広く知られている観光地・人物などをあげ、**それに関連する詳しい情報を解説する。**

- 案内人と地図など手がかりの役割を明らかにするため、番組での活用法を分析

75/96番組でマイナーな場所を解説、83/96番組で手がかりを活用する傾向

③ 現地の案内人と協力して地図などの手がかりから、**マイナーな場所を学術的に説明する。**

5. 活用法の検討（島原半島，小浜温泉）

人物：斎藤茂吉は小浜温泉を訪れ、橋湾の美しい円弧状の海岸線に沈む夕日を愛した。②

小浜温泉はなぜ生まれどう発展してきたのか ①

地形・地勢，地質・土質：橋湾地下のマグマ溜まりから雲仙火山にマグマが斜めに上昇していくと推測されている。このマグマ溜まりからもたらされる高温の火山ガスが、温度の低下によって成分の異なる火山ガスに分離し、地下水や雨水と混ざり合うことで、泉質の異なる小浜温泉・雲仙温泉・島原温泉が生まれている。

地形・地勢：千々石断層の南側が年間1.5mmの割合で沈降し続けているため、千々石断層を境にして海岸線が内陸側に入り込み、橋湾の美しい円弧状の海岸線が形成された。

開発，人物：本多家十代・本多西男が、自費で明治28年から約15年をかけ陸地の少ない小浜海岸の埋め立てを行い、交通網を整備し、小浜温泉を発展の礎を築いた。(本田西男による埋立工事予定絵図)

→埋め立て前の海岸線の地形が分かる地図などから埋め立ての痕跡を探す。③